



最上校図書委員会 No.19 11月1日

11月図書館企画 作品特集

「2022年発表新刊図書展」

「読書の秋」 ぜひ、新刊を読んでみよう！

『掌に眠る舞台』 小川洋子著

「だって人は誰でも、失敗をする生きものですもの。だから役者さんには身代わりが必要な。私みたいな」演じること、観ること、観られること。ステージの此方と彼方で生まれる特別な関係性を描く。

『仕掛島』 東川篤哉著

岡山の名士が遺した二通の遺言状。相続人探しの依頼を受けていた私立探偵・小早川隆生と遺言執行人の代理を務める弁護士・矢野沙耶香、ふたりは次から次へ奇怪な事件に巻き込まれていく。

『殺人者の白い檻』 長岡弘樹著

父母を殺した死刑囚、あなたならその命、救えますか？ 憎き犯罪者と医師は、どう向き合えば良いのか？ 犯罪者の生命は軽いのか、あるいは全ての人間と等しく重いものなのか？ 事件の真実と真相はどこにあるのか？ 究極の医療ミステリ。

『爆弾犯と殺人犯の物語』 久保りこ著

空也が小夜子のスマホを拾ったことで、二人は運命的に出逢う。

小夜子は事故によって左目に義眼を入れていた。空也はその義眼に惹かれ彼女を愛したのだが、事故の原因が自分自身が造った小さな爆弾であることを知る。秘密を抱えた夫婦が紡ぐ不可思議な物語。

『サクラオト』 彩坂美月著

五感をテーマとしたミステリ短編集。山形県出身。



2022 第三回 映画鑑賞会 in 最上校

「護られなかった者たちへ」

中山七里著

主演：佐藤健・阿部寛



仙台市の保健福祉事務所課長・三雲忠勝が、手足や口の自由を奪われた状態の餓死死体で発見された。三雲は公私ともに人格者として知られ怨恨が理由とは考えにくい。

一方、物盗りによる犯行の可能性も低く、捜査は暗礁に乗り上げる。誰が被害者で、誰が加害者なのか？ 怒り、哀しみ、憤り、葛藤、正義。この国の制度に翻弄される当事者たちの感情がぶつかり合い、読者の胸を打つ！ 第三の被害者は誰なのか？ 殺害された彼らの接点とは？ 本当に“護られるべき者”とは誰なのか？

期 日：11月17日(木)

時 間：午後3時50分～

場 所：PC室



※参加希望者は11月15日(水)まで、各クラスの申込用紙に氏名を記入すること。

2022年発表 オススメ新刊図書



『ついでにジェントルメン』 柚木麻子著

分かるし、刺さるし、救われる。自由になれる7つの物語。なぜか微妙に社会と歯車の噛み合わない人々のもどかしさを、しなやかな筆致とユーモアで軽やかに飛び越えていく。

『マスカレード・ゲーム』 東野圭吾著

解決の糸口すらつかめない3つの殺人事件。その被害者たちを憎む過去の事件における遺族らが、ホテル・コルテシア東京に宿泊することが判明。警部となった新田浩介は、再び潜入捜査を開始する。

『渚の螢火』 坂上泉著

1972年沖縄内に流通するドル札を回収していた銀行の現金輸送車が襲われ100万ドルが強奪される事件が起きる。本土返還50年を前に新鋭が描く昭和史サスペンス。

『チョウセンアサガオの咲く夏』 柚月裕子著

美しい花には毒がある。献身的に母の介護を続ける娘の楽しみとは？ミステリ、ホラー、サスペンス、ユーモア、時代など、デビュー以来、初のオムニバス短編集。

『パパイヤ・ママイヤ』 乗代雄介著

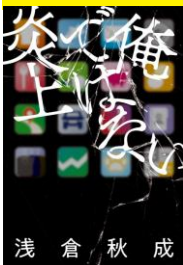
17歳の夏、SNSで知り合ったパパイヤとママイヤ。二人は週に一回会うようになり、心を通わせる。そして、奇跡のような出会いは、二人の夏を特別なものに変えていく。

『ワカレ花』 けんご著

話題の小説紹介クリエイター・けんごが手がけた初の小説。毎朝、同じ電車で見かける彼を振り向かせようと、遥は文庫本を手にするように？

『俺ではない炎上』 浅倉秋成著

ほんの数時間にして日本中の人間が敵になり、誰も彼もに追いかかれ、ともすると殺されそうになる中、泰介は必死の逃亡を続ける。炎上逃亡ミステリ。



『競争の番人』 新川帆立著

注目の新鋭が放つ面白さ最高の「公取委」ミステリ。数々の妨害を越えて、市場を支配する巨悪を打ち倒せるか。

『くるまの娘』 宇佐見りん著

17歳のかんこたち一家は、久しぶりの車中泊の旅をする。思い出の景色が、家族のままならなさの根源にあるものを引きずりだす。

『死神と天使の円舞曲』 知念実希人著

「我が主(あるじ)様」の命により、動物の姿を借りて地上に降り立ったレオとクロ。彼らの本質は高位な霊的存在、いわゆる「死神」「天使」。「生と死」に寄り添う隣人たちの、心震わせるミステリ

『夜に星を放つ』 窪美澄著

コロナ禍のさなか、婚活アプリで出会った恋人との関係、人が人と別れることの哀しみを描く「真夜中のアボカド」。学校でいじめを受けている女子中学生と亡くなった母親の幽霊との奇妙な同居生活を描く「真珠星スピカ」、父の再婚相手との微妙な溝を埋められない小学生の寄り添なさを描く「星の随に」など、人の心の揺らぎが輝きを放つ五編。

『宙ごはん』 町田そのこ著

愛し方がわからない花野。甘え方がわからない宙。家族を手探りする二人には記憶に残る食卓があった。

『カレーの時間』 寺地はるな著

僕の祖父には、秘密があった。終戦後と現在、ふたつの時代をカレーがつなぐ絶品“からうま”長編小説。ゴミ屋敷のような家で祖父・義景と暮らすことになった孫息子・桐矢。カレーを囲む時間だけは打ち解ける祖父が、半世紀の間、抱えてきた秘密とは？ラスト、心の底から感動が広がる傑作の誕生です。

『#真相をお話しします』 結城真一郎著

子供が四人しかいない島で、僕らは「YouTuber」になることにした。でも、ある事件を境に島のひとたちがよそよそしくなっていった。日本の〈いま〉とミステリが禁断の融合！ 緻密で大胆な構成と容赦ない「どんでん返し」の波状攻撃に瞠目せよ。日本推理作家協会賞受賞作を含む、痺れる五篇。

